

## ●日本橋三越 350 周年物産展出展

MC：具体的にはどのくらい作れる幅が広がったというか変わったんですか？

三浦：大村市の地域貢献活動されている『さくら日本一の会』っていうおおむら桜も含めて”桜で大村市をいっぱいにしましょう”って活動されている団体さんがあって、まずそちらの活動をご一緒しながら桜の枝を調達いただけるようになったんです。私自身もおおむら桜の苗木をもらって、それを育てることもやっています。今年いただいた枝で早速染めています。とても綺麗な濃いピンクが出ました、今年は！

MC：本当ですか？

宮本：いつもと違いますよね。

三浦：3年前にもらっていた枝で染めた生地よりも濃いピンクになって、本当に“桜染めの面白さ、草木染めの面白さ”っていうのはあるなと思いました。

宮本：でも地域に貢献して、公園とかそういったところに咲いている桜ではもちろんなくて、国の天然記念物なので許される限られたものから、そんなに潤沢にとというわけではないんですけど、いただけるようになりました。もしその話がなかったら、実は3年前に分けていただいた枝で染めた布はもう終わりだったんです。

三浦：なかったんですよ。本当に首の皮1枚じゃないですけど、本当に今年…

宮本：おかげさまで新たな事業展開が見えてきました。唯一無二のおおむら桜っていう良さも一緒に広げていきながら、いい形でディベアも盛り上がっていったらいいなって感じになっていますね。

MC：本当ですね、この大村市にいたからこそ、三浦様だからこそできるものですよ。

三浦：そうですね。おおむら桜の八重咲きってモコモコしていて、とってもかわいい桜なので、これを使うことによって私も何か大村市民になれるというか、大村市に勝手にPR大使しているんですけど“何かできたらいいな”って思ったんですよ。草木染めでピンクになるっていうのは、もちろんわかっていたことだったので、“ぜひやってみたい！いただけるものならやってみたい！”という思いはずっとありました。

MC：草木染めでピンクになるっていうのも、最初知らなかったんです。

三浦：そうですね、皆さん花びらであのピンクが出るとおわれているんですけど、枝の方を使うんですね。

宮本：しかもその伐採の時期も、枝を切り落とす時期も限られているんですよ。

**三浦**：冬場の寒い時期じゃないとダメで12月1月2月、桜の花が咲く前に栄養を溜めた枝がいいんだと思うんですよね…。そう、夏場の枝じゃダメっていうことで向かないらしいです、染めには。

**MC**：うわー、なんだかよりすごいですね。

**宮本**：そうですね、今観光大使っていう話があったんですけども、本当に今、出店するときにその状況になっていて…

**三浦**：「そもそもおおむら桜ってどこ？」ってやっぱりお客様から聞かれるので、「長崎ですよ、空港のある街ですよ」っていうことで、パンフレットとかリーフレットとかお持ちしてお客様に説明しながら、「お花いっぱいのは街です、地域です」っていうことをお伝えしながら、共感していただいています。

**宮本**：タペストリーも作り、動画も作り、テディベアじゃないところで作業をして、自前でPR。テディベアとともに、別に大村もPRしてくるっていう感じです。

**三浦**：そうなんです、でもおおむら桜を知ってもらってことは、大村市を知ってもらってことだから、もうイコールなんですよ。それで作ったベアちゃんっていうことで…。

**MC**：出展はどのような場所にされてらっしゃるんですか？

**三浦**：全国のデパートさんなんですよけれども、今年に入ってから、3月の中旬に日本橋の三越さんへ行ってきたんですよ。

**宮本**：そうそう日本橋三越 350 周年記念の…。

**三浦**：テディベア 5 体限定で持っていったんですけども、すごくお客様も興味持っていて、お買い求めいただいて…。つい 1 週間ほど前に宮崎の山形屋さんっていう宮崎のデパートにも行ってきたばかりです。

**宮本**：でもその日本橋の九州大物産展、さすがに日本橋三越 350 周年記念の物産展ということで、出展されている企業様がもう老舗企業様ばかりでした。きっかけは、バイヤーさんと実際に産業支援センターでお話をして、元々出展するはずじゃなかったのに、地域貢献活動とか、桜テディに興味を持ってくださって、2人でガリガリ売り込み、その場で「じゃあ 350 周年記念の日本橋に出るのはどうですか？」って話がその場で決まったんです。

**三浦**：最初はお顔見る限りだけでは、“とりあえずお話聞いところか、ここまで来たから、ちょっとついでに聞いところか”の感じだったんですよ。センター長のゴリ押しですね！

**宮本**：いやいや、今2人で言ったでしょ！(笑) 2人で押したんです(笑)

**三浦**：もうそこですごく目の色が変わってこられて、本当にすごく体を乗り出すような感じで一生懸命食い入るように聞いていただいて、蓋開けて行ってみたら、最初「販売台1テーブルぐらいだったら取れそうなんです」というお話で、「もうそれで十分です」なんて言っていたら、だんだんスペースが広がってきて、販売台2台、大村市の宣伝するスペースまでいただいて、十分なスペースをいただきました。

**宮本**：持っていった大村市のパンフレットが即なくなって、県の日本橋物産館にパンフレットを取りに行つて、ドサッと持ってきてまた並べて置く状況で、大村大人気でした(笑)

**MC**：凄すぎますね！

**宮本**：もうこれは観光大使です。

**MC**：次はまた違う場所にも行かれるんですか？

**三浦**：そうですね、今月が佐賀玉屋さんに行きます。6月の上旬に長崎浜屋さんで”モノコレ”っていうイベントが催事場であるんですね。近いところではそんな感じですね。

**MC**：すごいですね、大村市もあのベアちゃんもどんどん広がっていきますね。

**宮本**：価格帯も変わりましたし。

**MC**：そこも戦略ですか？

**宮本**：そうです(笑)

**三浦**：浜屋さんの方の“モノコレ”にも大と小と少しずつ、また専用のスペースを作るのでそこに持っていこうかなと、長崎県内の皆さんに見てもらえたらいいなと思います。

**MC**：大村市でも見られる場所はあるんですか？

**三浦**：そうですね、市役所の入口にあるあのガラスのケースの中に入れときます。今違う子が入っているのでせつかなので、桜のベアを見ていただきたいので、今ちょっと手元に本当はない状態でちょっと余分ができたなら、すぐ展示にいきたいなと思います。

**MC**：ありがとうございます、楽しみにしております。